

2017年7月

地域自然情報研究会

自然エネルギーの普及にみる、地域でのゾーニングの重要性 －GIS整備の現状と鳴門市での取り組み－

市川 大悟 氏

(WWFジャパン(世界自然保護基金ジャパン) 気候変動・エネルギーGr オフィサー)

ここ数年で、うなぎ上りの成長を続けている自然エネルギー。日本のみならず世界各国でもその躍進度合は変わりませんが、ただ、その普及の導き方には、日本との間で隔たりがあります。とりわけ海外では、開発による環境負荷を避けつつも、一方で導入を果たせるような計画整備(ゾーニング)が進んでいます。

そこで今回は、成長を続ける日本の再エネの将来を見据えつつ、なぜ、これから地域でゾーニングが求められていくことになるのかについてお話しします。

また、WWFが鳴門市で取り組んできた、地域による陸上風力のゾーニング事例を紹介するとともに、現在の自然エネルギーに向けた各所でのGIS整備の現状について触れます。

開催日時

2017年7月2日(日) 15:30~17:30

参加費

500円(ただし、GCN会員は無料)

お申し込み・お問い合わせ

当NPOのホームページ(下記)よりお申し込み下さい。

<http://www.geo-eco.net/>

NPO法人 地域自然情報ネットワーク 事務局
(gcnken@gmail.com 担当:梶並)

会場案内

新宿区環境情報学習センター 2F 研修室
(エコギャラリー新宿)



地域自然情報研究会とは?

当NPOにて2006年から、年3~4回のペースで開催している研究会で、地生態学・景観生態学などにかかわる調査や研究、GIS情報整備や公開にかかわることなど、幅広い分野の方から話題を提供いただいています。意見や質問が飛び交う中から、新たな発想が生まれる場とするために、分野に限らず、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお本研究会では、皆様の話題提供も、随時、受け付けています。ご興味のある方は是非ともご連絡下さい。

GCN NPO法人
地域自然情報ネットワーク
The Geoeological Conservation Network

NPO法人地域自然情報ネットワーク(GCN)は
地生態学の視点から自然環境の保全を提案します

なお、GCNにつきましては、当会ホームページをご覧ください。
<http://www.geo-eco.net/index.html>